

いのち  
生命のにぎわい通信

第19号：発行 平成23年(2011年)10月

この房総半島で、ともに生きている陸生哺乳類(野生動物)について、考えてみましょう

県内に生息する陸生哺乳類は、在来種11科22種、外来種(移入種)12種であり、日本の生息種の25%が生息していますが、一方では、外来種の割合が高いという特徴があります。

半島南部の房総丘陵には豊かな自然環境が残っており、ニホンジカ、ニホンザル、テンといった森林性の在来種の生きものが生息しています。高い山が無く、半島であり他の山塊と孤立している地理的条件のため、高山性のカモシカや大型動物のクマは生息していません。

野生動物に関しては、生息環境の悪化による在来種の減少、農林業への被害問題、外来種が引き起こす問題などがあります。近年、県内では、サル、シカ、イノシシ等野生動物による農作物被害が拡大しており、地域/市町村/県が一体となって、防除・捕獲・生息環境整備及び資源活用など、野生鳥獣対策を実施しています。人と野生動物が共生できる生息環境とは何かを考えていきましょう。

千葉県に生息している陸生哺乳類(在来種)

「a0\*\*\*」は写真を撮影した調査団員の番号です。

写真の生きもの以外にも、アカギツネ、コウモリの仲間、ニホンリス、ニホンアナグマなどが生息しています。



タヌキ(イヌ科)

a0285

県内全域に生息し、雑食性でカエル、ネズミ等の小動物から果実、農作物まで食べる。夜行性であり、人家近くまで生ゴミや犬のエサを食べに来る。ダニが寄生して皮膚病になり、衰弱して保護されるタヌキもいる。



ニホンイタチ(イタチ科)

a0284

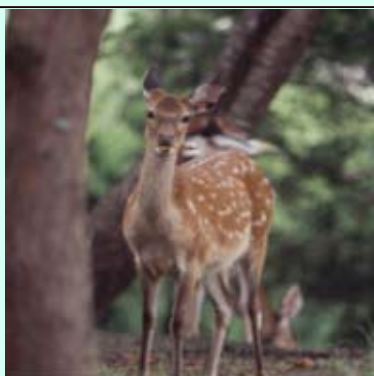
県内全域に生息し、肉食性でカエルやアメリカザリガニ、ネズミ等の小動物を食べる。オスはメスの1.5倍大きい。水辺に近い土手などに巣穴を持つ。



ニホンノウサギ(ウサギ科)

a0285

県内全域に生息し、草食性で、畑等に特徴的な足跡(団通信15号参照)が残されていることが多い。夜行性であり、イタチやオオタカなどの天敵に捕食されるため用心深く見る機会は少ない。



ニホンジカ(シカ科)

a0029

房総丘陵の森林に生息し、草食性で、植物の葉やドングリを食べる。オスの角は毎年はえ代わる。個体数が増加しており、農作物への被害も出ているため、林縁部と耕作地を離して棲み分けさせるなどの管理を行なっている。



ニホンザル(オナガザル科)

千葉県RD82011 Dランク a0544

房総丘陵の森林内で群れで生息する。雑食性で、主に植物の実や葉を食べるが、農作物への被害もある。野生化した特定外来生物アカゲザルとの交雑による遺伝子汚染が懸念されている。



ニホンテン(イタチ科)

千葉県RD82011 Dランク a0065

房総丘陵に生息している。夜行性で、樹上をよく利用し、果実から鳥のヒナ、ネズミなどを食べる。夏毛は黒褐色で喉から胸が黄色で、冬は全身が薄い褐色となる。生息数は減っている。

千葉県に生息している哺乳類（外来種）他地域や外国から持ち込まれた生きものが、逃げ出して増えています。



**ハクビシン(ジャコウネコ科)**

中国、東南アジア原産 a0034

県内全域に生息し、雑食性で特に果実を好み、木に登り、都市部の住宅地にも生息する。夜行性で、樹や電線の上を伝って移動することが多い。人家の庭の菜園や果樹園の作物を加害する。



**アライグマ(アライグマ科)**

北アメリカ原産・特定外来生物 a0449

雑食性で両生類、爬虫類、魚類そして農作物まで何でも食べる。在来の両生類やイシガメへの食害が深刻であり、また、木登りが得意で人家や神社等の屋根裏に入り込み被害が出ている。防除が行なわれている。



**キョン(シカ科)**

台湾、中国原産・特定外来生物 a0363

小型のシカ。観光施設から逃げ出して野生化し、県南部で増加している。森林に生息し、明け方や夕暮れの活動時には林縁から出て、農作物や在来植物を食害して植生を破壊している。防除が行なわれている。



**アカゲザル(オナガザル科)**

ユーラシア大陸東部原産・特定外来生物 池田文隆氏

房総半島南部で、観光施設などから逃げ出して野生化した。ニホンザルより尾が長く、下半身の毛は赤黄褐色であり異なる。ニホンザルと交雑して遺伝子汚染がおきている。交雑個体も対象として、館山市と南房総市で防除が行なわれている。

**特定外来生物のカオジロガビチョウを観察**

特定外来生物に指定されている「カオジロガビチョウ」を a0589 団員から、平成23年7月22日に野田市江川地区で観察したと報告がありました！

千葉県内では、観察日時、観察場所の位置情報、写真を揃えての記録は、初記録（\*千葉県立中央博物館に確認）となるようです。

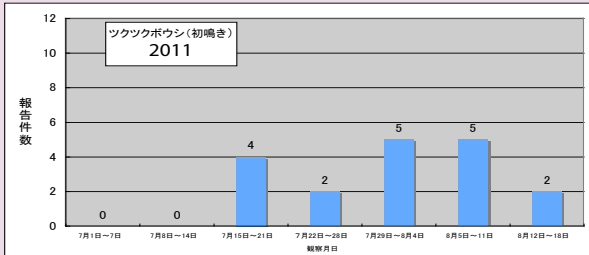
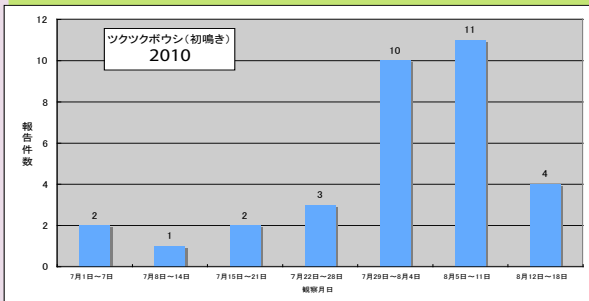
群馬県赤城山麓から利根川沿いに生息地を拡大している特定外来生物です。定住性で里山の低地林が生息環境であり、同じ生息環境の在来種のカオジロガビチョウやツグミなどとの競合や生態系への影響が懸念されています。



写真（撮影 a0589 団員）

**ツクツクボウシ初鳴きの年別の比較**

2011年は春先の気温が低かったため（ソメイヨシノの開花も遅れ）、前年よりもセミの鳴き初めが遅れました。



**要注意外来生物「アカボシゴマダラ」が観察、撮影されました！**

人為的に放蝶されたとされる要注意外来生物アカボシゴマダラ（神奈川県では定着）が、団員 a0034 さんにより富津市で観察／撮影されました。蝶の研究者とも情報を交換したところ、近年、館山市や北総地域でも確認され、今後、県内に定着する恐れがあります。春型の成虫は赤い斑紋が無く、幼虫はエノキの芽や葉を食べ、枝の分岐点など樹上で越冬します。

このチョウは、生息環境や食草が同じ近縁のゴマダラチョウやオオムラサキに影響を与える恐れがあり、発見して飼育した場合にも野外には放さないようにお願いします。外来生物は、入れない、捨てない、拡げない。



**<これから観察できる生物と季節報告>**

オオバン、ミヤコドリ、ミノムシ、リンドウ（開花）、ビワ（開花）、イチヨウ（黄葉）

希少生物（生息／生育数が減少している生物）や外来生物（特定外来生物・要注意外来生物）の情報を集めています。